

2025年度 東京都立大学 数理・データサイエンス・AI教育応用基礎プログラム 自己点検・評価書

2025年5月9日 数理・データサイエンス副専攻委員会

No.	自己点検項目	評価基準	結果及び改善に向けた取り組み等	評価結果
1	プログラムの履修・修得状況	プログラム科目が学生の所属学部・学科に関わらず履修可能な形で開講され、幅広く履修されているか。	・プログラムの導入科目として、1年次の必修科目「情報リテラシー実践Ⅰ」を開講し、すべての学部・学科の学生がプログラムを履修を開始している。	基準を満たしている。
2	学修成果	学生がプログラム科目の到達目標を一定以上達成し、学修成果を実感しているか。	・各授業科目において修得できる知識・スキル・能力等の学修成果をカリキュラムマップで学生に明示しており、授業科目ごとの授業改善アンケート結果及び成績分布分析データをもとに、学修成果を確認している。	概ね基準を満たしている。
3	学生の内容の理解度	学生アンケート等を通じて、プログラム科目の学生の理解度を把握し、授業改善に活かしているか。	・プログラムを構成する各授業科目の履修学生を対象に、各学期末に授業改善アンケートを実施し、各授業科目の理解度を調査し、授業科目の内容や難易度の調整等の授業改善に役立てている。	基準を満たしている。
4	後輩等他の学生への推奨度	学生がプログラム科目の履修を後輩等他の学生へ推奨しているか。その他、プログラムの情報発信を適切に行っているか。	・プログラムを構成する各授業科目の履修学生を対象に、各学期末に授業改善アンケートを実施し、プログラムの履修により、主専攻と異なる学びが得られること、主専攻への影響等について調査し、分野を超えた学修効果を確認し、有用性について周知している。 ・プログラムのガイダンスにおいて、先輩学生がプログラム学修を通じて身に付けた知識・スキルを紹介する機会を設けている。 ・プログラム関連のウェブサイト及びリーフレットに先輩学生のインタビュー記事を掲載し、入学予定者及び在学学生に向けて情報発信を強化し、履修を促している。	概ね基準を満たしている。
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画が適切に進捗しているか。	・本プログラムを構成する「情報リテラシー実践Ⅰ」は全学部のカリキュラムにおいて必修科目としており、履修者数及び履修率の向上を推進している。 ・新入生ガイダンス時にプログラム関連のリーフレットを配布し、ガイダンス情報を周知し、学修内容の理解促進及び興味喚起に努めている。	基準を満たしている。
6	プログラム修了までの支援体制	学生がプログラムの履修を継続し、修了できるよう適切な支援を行っているか。	・プログラムの授業科目は、南大沢キャンパスでの対面開講を基本としているが、2年次又は3年次から日野・荒川キャンパスに通学する学生が履修を継続し、修了できるように、オンラインやオンデマンドで受講できる体制を整えている。 ・理系の大学院生が学習相談室でサポートする等、文系理系を問わず、学生が修了できる支援体制を整えている。 ・修了証明書（オープンバッジ）を発行を検討し、多くの学生がプログラムを継続・修了できるよう、推進している。	基準を満たしている。
7	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	プログラム科目において、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させる取組を実施しているか。	・プログラム全体を通し、数理・データサイエンス・AIと実社会とのつながりを意識させるような具体例を講義に盛り込むことや、講義で学んだ知識を実際に活用する場面を感じさせる課題を課すことを積極的に行っている。 ・必修科目の「教養としてのデータリテラシー」では、オープンデータの探索・収集・分析を演習として課し、Web上で学生同士の分析結果を公開して相互評価する仕組みを行うことで、学んだデータサイエンスの知識が現実のデータ分析に活かされる体験をさせつつ、分析の視点の違いから学生が相互に学びあうことを狙っており、楽しみながら、本分野を学ぶことの意義を感じさせる工夫をしている。	基準を満たしている。
8	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価を把握しているか。	・学部卒業時の進路調査において、プログラム修了生の進路状況を確認している。今後は卒業生に対する卒業後3年の調査にて活躍状況の確認を予定している。	概ね基準を満たしている。
9	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学外機関からの意見を聞き、プログラムの改善に繋げているか。	・他大学の事例、産業界等の取組事例を調査し、学内委員会等で共有することで、プログラムの改善に努めている。 ・高等教育関連の学会にて得られた知見を学内に共有することで、プログラムの改善につなげている。	概ね基準を満たしている。